国立国語研究所学術情報リポジトリ

地域に定住する外国人の日本語使用と言語生活に関する研究：約10年間の縦断調査の結果を踏まえながら

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野山, 広 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003399

NINJAL オープンハウス 2018 J5

地域に定住する外国人の日本語使用と言語生活に関する研究
ー約10年間の縦断調査の結果を踏まえながらー

野山　広（国立国語研究所 日本語教育研究領域）

1．はじめに： これまで，Welfare Linguistics的な観点から，調査・研究のためだけの調査というよりは，地域の需要や要望に応えた調査を目指して，現地に定住する外国人学習者に対して，OPI（Oral Proficiency Interview）の枠組みを活用したインタビューを5年間（第1期：2007年～2009年，第2期：2009年～2012年，第3期：2013年～，第4期：2018年～）に渡って行ない，形成的なフィードバックをすることで彼らと寄り添いながら，学習支援を展開してきた。その成果として，インタビューの文字化データと共に，彼らの言語生活情報やインタビュー後のフィードバック情報も含めた分析結果・発表結果等を基に，データベースとしてインターネット上に公開した。その概要に関する報告と今後の展望を行う。 ⇒ **日本語学習者会話データベース 縦断調査編**
https://nknet.ninjal.ac.jp/judan_db/

データベースの概要：散在地域（A県B市），集住地域（C県D町）において，日本語学習者に対する縦断調査を実施した成果である。**OPI**の枠組みを活用した日本語学習者とテスターの会話を文字化して，会話能力（初級～超級までの**10**段階評価）の評価情報や関連情報とともに提供
⇒　例）約**30**人分の**2~5**年間の縦断データ：**5年間のレーティング結果**

表1. 外国人散在地域の話者のOPIレーティング

学習者	母語	職業	一年目	二年目	三年目	四年目	五年目
B1	ロシア語	主婦	初-中	初-上	中-中	中-中	中-中
B2	タガログ語	主婦	中-下	中-中	中-中	中-中	中-中
B3	タガログ語	主婦	中-上	中-上	中-上	中-上	中-上
B4	中国語	主婦	上-中	上-上	上-上	上-上	上-上
B5	中国語	高校生	上-下	上-上	上-上	上-上	上-上
B6	中国語	高校生	中-上	中-上	中-上	中-上	中-上
B7	マレー語	主婦	中-中	中-上	—	中-上	中-上
B8	中国語	主婦	中-中	中-上	中-上	—	—
B9	中国語	主婦	中-中	中-上	中-上	中-上	中-上
B10	韓国語	主婦	中-中	—	中-上	中-上	中-上
B11	中国語	主婦	上-下	上-下	上-下	上-下	上-下
B12	中国語	主婦	中-下	中-中	中-中	中-上	中-上
B13	中国語	主婦	—	—	中-中	中-中	中-中
B14	中国語	主婦	—	—	上-下	上-下	—
B15	タガログ語	高校生	—	—	中-下	中-下	中-下
B16	英語	主婦	—	—	—	—	中-上

表2. 外国人集住地域の話者のOPIレーティング

学習者	母語	職業	一年目	二年目	三年目	四年目	五年目
S1	ポルトガル語	大学生	上-下	上-中	上-中	上-中	上-上
S2	ポルトガル語	高校生	上-下	上-中	—	上-上	超
S3	ポルトガル語	高校生	上-下	上-上	上-上	超	—
S4	ポルトガル語	中学生	初-上	—	初-上	—	—
S5	ポルトガル語	高校生	(中-上)	上-下	上-中	上-中	上-上
S6	ポルトガル語	高校生	(中-上)	上-下	上-下	—	—
S7	ポルトガル語	高校生	初-上	—	—	—	—
S8	日・ポ語	中学生	上-上	超	超	—	—
S9	ポルトガル語	高校生	中-下	中-中	—	—	—
S10	ポルトガル語	教職員	中-中	中-中	中-中	中-中	中-上
S11	ポルトガル語	高校生	初-上	—	—	—	—
S12	ポルトガル語	高校生	初-上	中-下	—	—	—
S13	ポルトガル語	高校生	初-上	初-上	中-下	中-中	—

5年間のレーティング結果（表１＆表2）

これまでの分析結果から
1.定住者の言語使用の実態（集住地域）
　個々の言語生活の状況によって話題別の言語能力が異なる
高校⇒大学等，発達段階に応じて言語能力が向上している
2．OPIのレベル変化と定住者が必要とする日本語力（分散地域）
定住者中で特に主婦は，OPIレベル中－上までは向上するが～
⇒そもそも必要な日本語会話力はOPIレベル（上級）なのか
⇒個々の話者の地域の生活に必要な日本語会話力とは何か，に注目すべきではないだろうか

3．定住者の言語的な課題と必要な言語支援（分散）
　地域日本語教室や年間の活動への参加等（正統的周辺参加）によって，スパイラルに生活で必要な会話能力や異文化対応力がついきてはいるが，彼らの日本語には幾つか課題が見られる。
　⇒スタイルの問題，発音の問題，その他対話方略的な問題
　⇒主に自然習得環境での学習が多い定住者の課題が浮き彫りになる
4．日本語支援からコミュニケーション支援へ（集住・分散）
　地域の定住者は，ただ日本語の知識を学ぶこと以上に，その日本語を使用した経験知を蓄積する必要がある。換言すれば，コミュニケーションの方法を学ばなければならない。
　⇒地域の日本語教育の充実，教室の在り方再考の必要性

今後の展望
（1）日本語データ収集や整備促進と研究への応用
OPIの枠組みを活用した学習者会話データを，基盤情報の一つとして日本語教育研究，習得研究，コミュニケーション研究の更なる展開，充実に向けて活用していく
⇔ 日本語教育研究に必要な情報（内容）の整備や，処理機能を備えた日本語データ環境の整備
（2）さらなる課題の解決に向けて
〇日本語データに対する付加情報の工夫
〇利用者が日本語データを活用する際や，データを活用して新たなデータを作成する際の連携と協働へ向けた工夫
（3）地域の学習支援現場の関係者との協働の可能性の追究
〇多人数会話場面の提供と共同研究の実施・展開
〇地域の状況に応じた学習支援プログラムの考案
〇人間関係づくりの基盤としての教室の存在の探究
〇新たな地域（例：他の集住地域，散在地域等）における共同研究の可能性追究，地域比較分析の試み
〇高齢学習者の言語摩滅（喪失）に関する研究・追究
（4）OPIの枠組み以外の方法の有効活用に向けた追究
〇質的調査と量的調査の併用や，経年調査の実現可能性探求
例）地域社会における異文化理解度や対外国人意識等に関する調査方法の開拓，実践，活用等

これまでの成果等

【論　文】
(1）野山広・桶谷仁美（2016）「CLD児童・生徒の言語環境の整備と日本型多文化共生社会ー社会参加という観点からー」『異文化間教育』44号（pp.18－32）異文化間教育学会
(2)野山広（2015）「地域における日本語教育支援と多文化共生ーローカルな視点から捉えるグローバル・シティズンシップー」（特集：異文化間教育学とグローバル・シティズンシップ）『異文化間教育』42号（pp.45－58.）異文化間教育学会
(3)野山広(2013)「地域に定住する外国人の日本語会話能力と言語生活環境の実態に関する縦断的研究」『国立国語研究所プロジェクトレビュー』第4巻第2号、100-109
【発　表】
(1)野山広・嶋田和子・山辺真理子・今村圭介（2012a)「日本語非母語話者の発話スタイルの特徴と課題―外国人散在地域の定住外国人の縦断OPIデータから―」2012年日本語教育国際研究大会（ICJLE,NAGOYA）（8月18日，名古屋大学）
(2)野山広・嶋田和子・山辺真理子・藤田美佳・森本郁代（2012b)「散在地域に定住する外国人の日本語習得と言語生活支援の実態に関する縦断的研究―OPIの枠組みを活用した形成的フィールドワークの結果を踏まえながら―」『2012年度日本語教育学会秋季大会予稿集』31-42、日本語教育学会（10月13日、北海学園大学）
(3)野山広・嶋田和子・山辺真理子・今村圭介（2011）「結婚移住女性の言語的特徴と日本語教育支援の在り方に関する一考察ー散在地域における4年間の縦断調査結果を事例としてー」『社会言語科学会第28回大会論文集』
(4)野山広・嶋田和子・山辺真理子・山口真理子・簇野智紀（2009）「集住地域に定住する日本語非母語話者（日系ブラジル人）の言語生活に関する縦断的研究-OPI（Oral Proficiency Interview）テストを活用した会話データを事例として-」『社会言語科学会第23回大会論文集』

参考文献：
徳川宗賢(1999)「ウェルフェア・リングイスティクスの出発」（対談者 J.V.ネウストプニー）『社会言語科学』第2巻第1号 89-100、社会言語科学会
.當眞千賀子(2006)「形成的フィールドワークという方法―問いに応える方法の工夫」吉田寿夫（編）『心理学研究法の新しいかたち』170-194、誠信書房